

令和7年度 第3回恵那市ＩＣＴ活用推進委員会 議事録

日時：令和8年1月15日（木）午後1時30分

場所：恵那市役所 会議棟 大会議室

1. 開会

2. 議事

(1) 恵那市DX推進計画（案）について

資料No.1

(第3期恵那市ICT活用推進計画)

3. その他

4. 閉会

■委員

	選出区分	団体名	氏名
1	学識経験者	法政大学理工学部	藤井 章博
2	学識経験者	法政大学大学院	山崎 泰明（欠席）
3	商工団体	恵那商工会議所	古山 紀昭（欠席）
4	商工団体	恵那市恵南商工会	瀬戸 利之（欠席）
5	教育団体	恵那市小中学校校長会	可知 浩幸
6	防災団体	恵那市防災研究会	岩井 慶次（欠席）
7	福祉団体	恵那市社会福祉協議会	紀岡 伸征
8	その他団体	恵那市地域自治区会長会議	小木曾 信夫（欠席）
9	副市長	恵那市	柘植 克久

■DX推進監

1	情報政策課（ソフトバンク株式会社）	竹内 武司
---	-------------------	-------

（事務局）情報政策課 沼田、鈴木、小坂、森山

ソフトバンク株式会社 小林

■傍聴者 0名

1. 開会

■事務局（進行）

本日はお忙しい中、お集まりありがとうございます。恵那市役所情報政策課長の沼田が、本日進行を務めさせていただきます。

開会の前にお知らせします。本会議の資料はペーパーレスで、お手元のパソコンを用意し、そちらの方に資料を用意させていただいております。そのため、資料はそちらでご確認をよろしくお願ひいたします。

改めまして、本日も第3回目となります恵那市ICT活用推進委員会を開催させていただきます。本日ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、本日寒い中、ご足労いただき、誠にありがとうございます。

前回、第2回委員会は11月20日でした。その場では素案ということで、基本的な理念や方針等をご確認いただきました。そして、本日の第3回はその先の基本方針に基づく各種の取組内容、そしてそれらに関連するKPIとしての目標指標等をご確認いただきますようお願いします。そして、恵那市DX推進計画（案）という形に本日まとめたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

委員会の開催が、年明けの繁忙期や体調不良等によりご欠席の方もいらっしゃいますので、本日は4名で、進めてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

また、日頃からこの会議につきましては、会議の公開に関する要綱というところの中で、また議事録等につきましては、市のホームページの中で掲載をさせていただければと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

本日は、様々なご意見を聞かせていただければありがたいと思います。よろしくお願ひいたします。

それではこれから次第に沿って、議事の方を藤井委員長より、順に進行をよろしくお願ひします。

2. 議事

・恵那市DX推進計画の素案について

■藤井委員長

はい。皆様お待たせしました。直接、この活動に関係あるかわからないですが、先日、小野田大臣がいらっしゃって、官僚の方々と、あとは民間企業の方々が会合にいらっしゃいました。政権が変わり、かなり経済政策に本気で経済安全保障というのが、経済政策が本気で飛び上がっている。具体的にどういうことが達成できるか示していると思います。地方自治体もその流れと全然関係ないわけじゃないので、このDX推進についても長期計画として、その流れの中で協議ができればと思いましたので、全体としてのご報告いたし

ます。では、さっそく議事の「(1) 恵那市 DX 推進計画（案）について」を事務局より説明をよろしくお願ひいたします。

(1) 恵那市 DX 推進計画（案）について

[事務局から資料No.1「4. 基本方針ごとの取組 4.1 市民サービスを便利にする DX」までを説明]

■藤井委員長

ありがとうございます。まず、3つの話題の中の1つ目の「市民サービスを便利にする DX」をご説明いただきました。市民サービスの便利化ということで、方針として今12の項目を挙げていただきましたので、それらのご説明に対して質疑を呼びかけさせていただきます。

ではまず私から。防災情報に関しては、具体的にはどのように、どんなシステムを導入する等は決まっていますか。

■事務局（進行）

はい。まさに実際にプラットフォームだとかっていうところにつきましては、具体的にどういったサービスかも含めて、これからになります。ただ、市としまして、そういうサービスをプラットフォームなのか、アプリなのか、他のソリューションなのかというところにつきましても、まだゼロベースというような状況であります。

そのため、このようなツールを導入して、安心安全というところについてデータを活用するというような取り組みについては、担当の部署とも調整させていただいているところです。

■藤井委員長

あと、多言語化についてですが、これご存じのように機能が日進月歩ですごく向上していますので、上手に活用すれば非常に利便性があると思います。

それでは他にはどうですか。可知委員、どうぞ。

■可知委員長

はい。資料の「No.6 教育保育施設のデジタル化整備」について。ご存知だと思うが、県立の高等学校はもう補助がなくなり、自分でタブレットを用意する必要があります。

なので、例えば恵那市内の高等学校については、その辺をちょっと充実させていくと、よいかと。それで、市内の高等学校に進学する子どもが増えていけるかはわかりませんが、近くに大学が無いため大学は無理ですが、高校までは恵那市内で、大学で外に出て、また戻ってくるっていうね。そういう U ターンの子どもも増えるのではないかという

ことも期待されるのではないかと思います。

県立なので難しいですけど、そういう子への補助がやっぱりできるといいかなと思っております。

■藤井委員長

ありがとうございます。

■柘植副市長

それにつきましては、今回、国が出した経済対策、物価高騰対策ということで、恵那市も様々な対策を出していまして、その一つに、高校入学時の給付金という、入学時に3万円を手当として通常より多くします。令和7年度12月補正、昨日の議会でご議決していただきましたので、そういう支援はさせていただきます。それからあと、「えーな生活応援券」として恵那市独自の商品券を一世帯あたり、1人5,000円配布する中で、18歳未満の子どもがいる家庭については、プラス5,000円配布という支援をさせていただきます。

このように、子どもについては、手厚く物価高騰に対して、経済的のところでご応援させていただくということですので、そのお金使ってタブレットの購入・代金にしていただくことで補助になるということになります。

■事務局（進行）

まさに今可知委員がおっしゃっていただいた、高校に入学する来年度からタブレット等の購入費が自費になるということを受けての対策をやってきたということです。大体タブレットを高校で買うと最低でも6万円程度するかと思います。その約半額の1/2程度を支援できるようなということで、今の3万円というのが建て付けで考えてきた要素の1つだと思います。よろしくお願いいたします。

■柘植副市長

はい。あと先ほどの藤井委員長の防災のデジタルツールについてで、来年度、備蓄品管理のデジタル化というような取組をします。備蓄品にも消費期限があるが、その管理が現在手作業のため、まずはデジタルを活用し効率的に管理しようというところです。具体的には、その辺をまずデジタル化する予定です。

■事務局（進行）

そうですね。最終的には3月のゴールには、しっかり確定して行きたいと思います。

■藤井委員長

ありがとうございます。他にはどうですか。紀岡委員、どうぞ。

■紀岡委員

資料の「No.9 デジタルデバイド対策」について。おそらく、障がい者向けのスマホ教室等はされているが、高齢者の方もかなり支援が必要になってくると思います。

その辺りも少し対策に含んでいただけだとありがたいかなと思っています。だんだんスマホとか使える高齢者の方も増えてはきているが、全く駄目という方も数多くいらっしゃると思います。

あとはやはり、災害時の情報提供はすごく大事だと思う。その提示するための元の情報を集めるのも大変かなと思うため、そのあたりと全体的に考えていただくということかなと思います。システムだけではなくて、内容の面でも。

■事務局（進行）

ありがとうございます。防災に関しては、これまで岩井委員がそういう分野で、20年たった音声告知器等のバージョンアップ等が必要とのご意見もいただいております。

やはり、現在の音声告知器も一方通行です。現在、情報の発信は届けられますが、今後は逆に家庭から災害本部とかに届くような双方向の考え方であるとかも整理をしながら、普段使いとしては防災機能だけではなくて、行政とか様々などろからの情報配信を受けられるなど、多機能的な機能も必要だろうと思います。

あとはそのような通信環境の部分との整合性であるなど、多角的な調整をしながら、新たな展開を考えていく必要があるなと思っています。ぜひ、そういったご意見をいただきながら、全て盛り込んでいくようになればいいなと思っております。ありがとうございます。

■紀岡委員

飯地町で今行っているスマートスピーカー、あれは双方向になる可能性がありますか。

■事務局（進行）

はい、あります。

■紀岡委員

それでは災害時にも場合によっては活用できるということですか。

■事務局（進行）

はい。ただ一個だけ懸念があります。スマートスピーカーは現在、飯地町で運用してい

るものはバッテリーが無いものです。直接電源をとっているため、停電時の使用不可というのが危惧されています。

そして、音声告知器は停電時であっても、電池を使えば、放送は流れています。今のスマートスピーカーはその点が少し弱いところがあるため、より最適なデバイスや、すでに個人が持っているスマホの活用等も含めて考えていく必要があるなと思っています。

■紀岡委員

はい、わかりました。ありがとうございます。

■藤井委員長

それでは市民サービスを便利にするという観点ではご意見を聞かせていただきました。次の説明を事務局よりよろしくお願ひします。

[事務局から資料No.1 「4. 基本方針ごとの取組 4. 2市役所の仕事を効率化する DX」を説明]

■藤井委員長

ありがとうございます。「4. 2市役所の仕事を効率化する DX」を説明いただきました。さっきのお話に返して、AI ですよね。だいぶデータが整理されていれば、作業を AI に任せてもいいみたいなことが多く出てくると思うので、ぜひ活用、推進していただきたいなと思います。

では、まず私の質問としては、多分前回の計画の段階で RPA を活用するというのは結構目新しい項目だったと思うのですけども、それはこれまでの稼働量というか、どんな感じですか。

■事務局（進行）

はい。RPAについてご説明します。資料 No 1 の P12 に記載しております。これまでの取り組みとして、RPA の導入による事務負担軽減を掲げさせていただいております。

そして詳細を P15 にまとめました。現在、4 年間で 19 業務に取り掛かっており、現状は約 2,700 時間の削減時間に業務を効率化できたというような取り組みになります。

大幅に時間の削減はできていますが、導入実績を見ていただくと、令和 4 年度から実施させていただきましたが、導入業務が少なくなっていることや、業務が限られてきているというような傾向があるため、こういったところは課題になっています。

まだまだ横展開というところが不十分のため、業務の横展開を推進しながら、活用できるあの業務については活用ていきたいです。

また、RPA 導入済みの部署と未導入部署があります。未導入部署が結構あるため、その

部署についても更に促進を図っていこうというところで、今後も継続、拡充として計画では進めさせていただきます。

■藤井委員長

これもRPAだけっていうのは多分廃れていくというか、そのAIとのシームレスな代替みたいな感じになってくるのではないかと。なので、ぜひ先進的な活用の取り組みをされていると思うので、ぜひ続けていただきたいと思います。

それから私、個人的にサイバーセキュリティを研究としても関わっているため、最後に質問させていただきたいです。

これはやはりワイドに地方自治体でも、多分ご本人が知られなくても、いわゆるステークholderという、直接国、あの敵対的に関わってなくても、そういうところが裏でお金を支援していくということが特にヨーロッパの場合は当たり前に議論されているので、この先多分日本も同じようなことが起きるのではないかと懸念されています。

そのため、是非この辺は備えが憂いなしみたいなものですけれども、お願ひしたいなと思いますね。

皆さんの方から何らかの御意見がございますか。竹内推進監、どうぞ。

■竹内 DX 推進監

はい。今おっしゃるように、情報セキュリティは全ての根幹だと思います。ここに何かあればもう業務が止まってしまいますし、多分対応で時間がかなり取られるので、そこはしっかりとやっていただきたいなと思います。

行政の場合は他の市町と内部ネットワークが繋がっていますので、その他の市町が被害にあったときに巻き添え事故を食らわないように、やはり恵那市は恵那市としてしっかりと確保していただきたいなど。その上で、今回のいろんな取り組みがご成立するかなと思いますので、是非お願ひします。

あともう一つ、これ面白いなと思っているのはNO.24ですが、恵那市は議会がペーパーレスになったのが非常に早かったと記憶しております。

そういった意味でいくと、議員の皆さんも先進的だとここにグループエアを入れるというのは他もあるのですかね。あまり聞いたことがないです。非常にいいなと思いまして、ぜひここまでやるのであればやっていただきたいなと思うのは、あの、市役所のAIのように、議員の方が安心して使って、恵那市の情報であるとか、過去の議事が残っているAIを使える環境にしてあげることです。

それにより、議場でのご議論というのが高度になっていくのではないかというふうに思いますので、そこまで踏み込んでいただくと、恵那市の議員さんの活動も非常に高度化してくるので、恵那市らしいかなと思いますので、受け止めもらえばなと思います。

■藤井委員長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。ノーコードという最近流行りの多分トレンドだと思いますが、必ずしもノーコードだから効率が上がるって言えないっていう事情もあるので、その辺ちょっとよく注意させていただきたい。

他はよろしいでしょうか。それでは、紀岡委員。

■紀岡委員

「No18 介護認定業務の DX」 というところで、現在の介護認定は、申請から 30 日以内で手続きをしないといけないかと思います。しかし、手続きとして 1、2 ヶ月かかってしまっています。この点をどういった形で今後効率化していくのでしょうか。

■事務局（進行）

そうですね。やはり介護認定業務については、広域的に恵那市の場合は、中津川と一緒に認定審査を行っております。そういったところとの調整も当然必要になってきます。

今、紀岡委員のご指摘のように、やはり認定業務には審査会という会議体での決定行為だと、そこに書類を送ったり、逆にそこから問い合わせあるなど、いわゆる調査員、認定調査員のところにフィードバックしたりとかする業務が、未だに FAX が使われていたりします。そのやりとりで情報交換していることもあります。ご指摘のとおり、時間がかかり、非常に効率が悪い事務の仕方をしているというのもあります。

そのため、そういったところを今後介護の認定申請のボリューム感であるとか、そういったところも含めて何とか改善していきたいというところの建付けになってくると思います。

■藤井委員長

他にいかがでしょうか。それでは以上で市役所の事務の効率化する DX について終了します。

あと、余談ですが、「DX」という言葉はどうなのですか。この先も使われるのでしょうか。次の 4 年間で「DX」ということを使い続けることに違和感ないですか。

私はよくわかりませんが、今の世の中は流行り言葉好きじゃないですか。「DX」はもう古いみたいな記事も見たので、気になりました。

■事務局（進行）

国の自治体のデジタルに関する取組や政策についての後押しする計画があり、直近の 12 月にその計画が改訂されました。その改訂した段階でも「DX」という表記も含ませておりましたので、「DX」という言葉は残しております。

■藤井委員長

それでは私の杞憂ですね。

■事務局（進行）

いわゆる行政界隈では、まだ使っているのかと。もしかすると世の中的にはもっと先に進んでいるかもしれません。

■藤井委員長

先に進んでいるというと最近は、AIと対比でDXAIの取組みたいなことを言う場合が多いですね。

■竹内 DX 推進監

確かにうち（Softbank）のセミナーでも、「AX」という言葉を使っております。

「AI Transformation」という意味で。AXのところは多分もう、これからの中少子化時代を迎える中ではトランスフォーメーションしなきやいけないっていうのは変わらないと思いますが。違和感がない範囲でよいかと。幅が広いため。

■藤井委員長

こだわることじゃないかもしれないけど、気持ちとしては持っておいたほうがいいかと思います。

■事務局（進行）

おっしゃるようにやはりAIの分野では、国の方からも、AIを推進する、もしくはセキュリティ管理をするという体制を市町村もしっかりと整えるべきだ、そういうことが言われていることは、伝わってきております。

やはりAIという分野については、これから何かしら市町村としてもしっかりとした体制を整備することや、取組の仕方とかということを、やっぱり決めていくというか形作っていく必要があるかと思います。

■藤井委員長

ありがとうございました。それでは、次の項目に進んでいきたいと思います。次は、地域の暮らしと経済を豊かにするという観点でのご説明をお願いします。

[事務局から資料No.1 「4. 基本方針ごとの取組 4. 3 地域の暮らしと経済を豊かにする DX」を説明]

■藤井委員長

事務局より地域と暮らしと経済を豊かにする DXについて説明がありました。ご意見等お願いします。

■事務局（進行）

補足でお伝えします。本計画について市長にも事前にレクチャー、ご相談をさせていただきました。その中では、特に重要視している点は、市長の思いの中でも、市民サービスや業務効率化については、よくよくやっていけるだろうということでした。そして、この3つ目のテーマというのは、やっぱり地域が存続していくだとか、地域に人が住んでもらうと、そういった大きなテーマも控えているということで、特に重視して取り組んでいくこうと考えています。

■藤井委員長

つまり攻めの内容ということですね。私が、全体的には思ったのは、ぜひ大学と連携されたほうがいいのではないかと思いました。私のいる大学も一つかもしれません、過去に私がやらせていただいたみたいに、工学系でこれらのネタであれば、小額の研究費でもいいので、「このテーマについてどこかの研究室とやりませんか？」とかいうことを依頼してもらうと、結構フィードバックがもらえるかと思います。結構面白いフィードバックが得られるのではないかと思う。

パッと見ただけでも、例えば、3D モデルなど、多分建築の関係で取り組んでいる学生はいっぱいいると思うので、恵那のデータを公開すれば、「やっぱり面白い。」と関わってくれる学生さんがたくさん出てくると思うので、是非そういうのを検討されるとよいかと思います。

その他、ご意見いかがでしょうか。紀岡委員、どうぞ。

■紀岡委員

高齢者でいうと、特に No. 44 のお出かけ支援。やはり、外出手段が無いとか、対応ができる等が続いてくるため、今後どういうふうな取組みで支援できるかというところが、どうしても介護とか福祉の業界、デジタルに弱い人が多いと思うので、支援者も含めてそこが変革される点かなと思います。

何か恵那市で新しい取り組みがあるものがあれば一緒にやらせていただきたいなというのが本音です。

■藤井委員長

はい。こちらも思いつきだが、例えばどこかの福祉系の大学の学生とチームで、それで

恵那をフィールドにして取り組む。そして、現場では紀岡委員達にご協力いただきながら取り組むなどはどうか。その取り組みを手本としてプロジェクトを行い、学生からフィードバックを入れて、新たな開発するとか、いろんなやり方が考えられます。

結構取り組んでいます。大学の福祉系の学部が地域と連携し、高齢者とか介護のプロジェクトをする事例が。そういういったものができると良いと思います。

■事務局（進行）

ありがとうございます。今、紀岡委員からのご意見があった、スマートスピーカーやお出かけ支援について。

スマートスピーカーが取れている連携は、実は民生委員の方々。紀岡委員からのご意見を聞くと、例えばそこに関わっているケアマネージャーさんとか民間の介護事業所など、そういういた人たちとも何かつながりができると、もっと支援の輪が広がり、関わりの人が増えていくことによって、活用の効果が表れるとか、そのようなことの期待とともに考えながら、取り組めればと思います。

■藤井委員長

はい。他にはどうですか。可知委員、どうぞ。

■可知委員

2つあります。まず質問で、「No. 34 観光・交流促進のデジタル化」について。前回の委員会では、リニアの取組としての、移住、定住の記載であったかたと思いますが、今回はそれが交流人口の促進に変更されています。そのため、その経緯を知りたいです。

あとは、「No. 49 分身ロボットによる多様な働き方の推進」について。この分身ロボットのイメージが全くわからないので、どういうことを考えているのかお聞きしたい。

■藤井委員長

はい。ありがとうございます。それでは、事務局より順にご説明をお願いします。

■事務局（進行）

それでは初めてに No. 34 について。リニアのことにつきましては、表現としてもう少し大きく観光交流とか交流人口の増加とか構築という内容にするため、変更しました。

実は各課とのやりとりの中で、そこにもつわるテーマが、リニア以外のことでも実はたくさんあります、そこを網羅しながら一つの項目にまとめたという経過があります。

そのため、リニアという言葉が無くなり、全体としてとらえての表現に変更したという状況です。

あと、もう一つの分身ロボットについて。こちらの取組は、約 2 年前にも恵那市で実証

的に導入体験をしました。「OriHime（オリヒメ）」という、サイズ的には4、50cmの高さの分身活動ができるロボットです。

その分身というのは、ロボットから遠隔で操作するタブレットから風景が見られたり、音声で会話ができたり、ロボットが右上げたり左上げたり、手を振ったりなどができるようなものになります。

実は全国的にも、在宅にいる重度の障がい者等が、この分身ロボットを活用し接客をするなど、いわゆる就労しているという事例もあります。

このような可能性をこの恵那市でも何とかできないかということです。また、最近はよく福祉のテーマでは、就労というと8時間就労とか半日パートタイムとか言いますが、15分でも就労という考え方方が今出てきているため、そのようなことも含めて、社会的な弱者に対するデジタルを活用した解決という取組の一環としてもっと考えていきたいというふうに思っております。

■藤井委員長

ありがとうございます。この辺はもう本当に技術が進化するか、どれぐらいお金かけられるかなんですかけども、そこに携わる人も必要になりますよね。

■竹内 DX 推進監

やはり難しいのは、今まで私たちの仕事の仕方が、出すとき一人分出さないとできなかったというのがまさに今の当事者間、受け取るのが人間だろうが、ロボットだろうが、そこを途中で市役所が仲介することが多いと思います。やはり、業務を小回りにして、そこが浸透しないと受け皿があってもやはりなかなか進まないというのが現実になります。そこは恵那市に限らず、日本全体での大きなテーマになると思います。

■柘植副市長

可知委員からのNo34の取組の交流人口の考え方について補足をします。移住定住について考えると、まずはその前の交流人口を拡大することによって、「もしかしたら、恵那市がすごい魅力ある地域じゃないか。」と感じていただく必要があります。

その方が、恵那市のファンになり、そのファンがその市を支援してくれる関係人口的なところでそんな方になっていただけ。そして、その方がさらにもっと地域に入っていくて、「この本当に素敵な地域に住みたい。」というところまで持ってきていたいという考えです。その入り口にあるのが、交流人口となります。

■藤井委員長

はい。ここで議論しているのはDXの話ですけど、リニアに関してのやはり施策みたいなのもちろん必要かと思います。総合計画等にありますか。

■柘植副市長

あります。それは総合計画の中になります。

■藤井委員長

はい。あと Maas とはなんですか。マップアズアサーズとか。

■竹内 DX 推進監

モビリティ・アズ・ア・サービスです。

■藤井委員長

はい。やはりさっきの研究的な話でいうと、VR とか AR については、システムとかガジェットを導入することについてはいかがですか。

■事務局（進行）

そうですね。どこまでそのボリュームであるとか、中身であるとかというのはあると思いますが、一つさっきここで挙げたのは、地域資源を保存する、継承や利活用みたいなところや、今年度新たに岩村町に「佐藤一斎學びのひろば」という先人を顕彰する施設ができました。そのような中で、VR、ARなどを活用しながら、地域の伝統的資源をなんとか上手に残していく、伝達していくという取組や考え方があります。

■藤井委員長

実践女子大学との連携というのも良いのではないか。

■事務局（進行）

確かにそうですね。もちろん、そのところ連携も重要です。

■藤井委員長

他にも皆さんどんどんご質問ください。それでは、ひとまず地域の暮らしと 経済の活性化に関してのご意見は終了します。この後、KPI。キー・パフォーマンス・インディケーターについての説明をお願いします。

[事務局から資料No.1「4. 基本方針ごとの取組 4.4 基本方針ごとの成果目標(KPI)」を説明]

■藤井委員長

ありがとうございます。いいご意見ありますでしょうか。可知委員、どうぞ。

■可知委員

先ほど質問しましたが、「4. 2 市役所の仕事を効率化す DX」の3番目の柱のセキュリティ対策についてです。先ほどご説明いただいた KPI では、職員の情報セキュリティ研修とありますが、市役所だけじゃなくて、例えば小中学校とか、同様に職員も個人情報を常に取り扱います。そのため、例えば各学校で ICT 担当者がいるため、それぞれの担当者に研修をさせて、自校で研修を行うなど、いろんなスタイルがあると思いますが、一緒に考えていただけるとありがたいなと思います。

■事務局（進行）

ありがとうございます。そうですね。この計画書の記載ではこのような表記になるかもしれません、しっかりと実際の取組としては、学校教育課等としっかりと紐付けをして展開していければと思います。

■藤井委員長

確かに、個人情報は大事という観点もありますが、攻撃の可能性があるということも含めておいてください。

あと、IT パスポートは名称が確かに変わるとと思います。AI の領域が含まれると。AI を背景にしてそのデータを見直すみたいなのがあったので、ちょっと私の間違いかかもしれないです。他にいかがでしょうか。柘植副市長、どうぞ。

■柘植副市長

はい。防災の項目が載っていますが、データツールの満足度はどうやって測るのか。

■事務局（進行）

これは、アンケート形式を想定しています。まだ実施はしていないのですが、危機管理課と調整させていただいた中では、毎年実施している防災訓練などの機会で参加者の市民の方からアンケートを取得できればと思っております。まだ、どのようなツールを活用するかというところは決まっていないですが、導入した際に、そのツールから取れる指標なのか。行事の際に取るのか。というところは、これからになります。今の段階では、防災訓練でのアンケートを想定しています。

■柘植副市長

はい、分かりました。

■竹内 DX 推進監

満足度をKPIにしたときに難しいのが、やはりアンケートを取るというのはお互いに負担がかかるので、今のように年に一回とかっていう風になってくると、打ち手がうまくいってなかつた時に改善して、その結果がどうかって測ろうと思うと、多分3年後ぐらいになってしまうと思う。そのため、満足度は満足度で当然負担がかかるので、最終的なゴールにはしていただきたいですが、そこを上げていくためにもうちょっと因数分解して、何回の参加数だとか、そういういたような測りやすい指標も裏に持つておかないと、大変かなと思います。

■藤井委員長

たまたま私事ですけども、本日、情報政策課様にご協力いただいた卒業研究で、防災の演習をやると学生と開発している。大したものではないですが、最初は市長、それから消防と病院で、アンケートを取り、進めていかなければ、利用できません。

どれぐらいのものができるのか分からないですけれども、例えば今のKPIだとそういうのが仮にあるっていう状況で、「その実施に何人要した」とか、「組織の長は何パーセントカバーしている」とか、そういう風に資料を持っていけば、もっと具体的な因数分解された指標になるではないかなと思います。

■事務局（進行）

是非そういった部分には参考にさせていただきながら、しっかり裏としてのKPI等の管理、進行をしていきます。

■藤井委員長

ちゃんとプロが作ったものもありますので。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。それでは、本日の議事は終了となりますので、進行を事務局に戻します。

3. その他

■事務局（進行）

はい。今回の委員会で確認したかった内容は以上となります。今後のスケジュールを共有だけさせていただければと思います。資料No.3をご確認ください。

本日が1月15日の第3回の委員会です。今後は、1月26日から今日いただいた意見を基に若干修正を加えさせていただきながら、26日から2月25日まで市のウェブサイト、あとは実際の紙の書類等を市役所や振興事務所に設置し、パブリックコメントを実施いたします。パブリックコメントにより市民の方からもご意見の聴取をさせていただきます。

さらに、来週の木曜日に、市議会の全員協議会ということで、全員が集まる会議の中

で、今回お作りいただきました案を市議会の皆様にも情報共有をさせていただくということです。

最後、3月は、このパブリックコメントでご意見とか頂戴をした結果になるかと思いますが、4回目の最終の委員会をできる限り開かせていただいて、そこで最終の案を取り、「計画書」決定ということと、あわせて結果をどこかのタイミングで市長に報告するような機会も準備をしていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

また改めて日程等決まりましたら、皆様と調整をさせていただきまして、ご連絡をさせていただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

■藤井委員長

この点について何かありましたらどうですか。ないようですので、本日の委員会を閉会いたします。

4. 閉会

■事務局（進行）

はい、ありがとうございます。それでは本日ご用意させていただきました、議事につきましては以上となります。貴重なご意見ご指摘をたくさん賜りました。本当にありがとうございました。

これによりまして、パブリックコメント・議会報告等を進めていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。以上で終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。